



平成26年10月30日  
国土交通省中部地方整備局  
清水港湾事務所

## 海外の港湾技術者が清水港を視察

### 「富士山に配慮した日本で唯一の港の景観づくり」を研修

#### 1. 概要：

現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する平成26年度集団研修の一環として全国の港の視察をしています。

14カ国18名の研修員を国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所が受け入れ、清水港の概要について説明します。さらに、日本での先進的な景観の取り組み事例である「清水港みなと色彩計画」について、当事務所の港湾業務艇に乗船して長年、本色彩計画に主体的に取り組んでおられる東海大学海洋学部の東 恵子（ひがし けいこ）教授から説明していただきます。

※ JICA集団研修は、開発途上国のそれぞれの国が取り組んでいる港湾政策について、研修員相互が討論し成果を自国に反映させ、各国の港湾にかかわる諸問題の解決と社会経済の発展に寄与することを目的として実施しており、国土交通省港湾局が1963年から研修員を受け入れています。

#### 2. 日時及び場所

日時：平成26年11月5日（水） 13：10～15：30

場所：国土交通省中部地方整備局 清水港湾事務所会議室及び清水港内（船上）

#### 3. 取材申し込みについて

取材を希望する場合は、別添の「取材申込書」により事前にFAXにてお申し込み下さい。

申込み締め切り：平成26年11月4日（火）12時

※ 船の定員がありますので、取材希望者が多数の場合は、船内での取材について予め調整させていただくことがございます。

※ 天候の状況により、スケジュールの変更を行う場合があります。

4. 配布先： 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、静岡県政記者クラブ  
静岡市政記者室、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

5. 問合せ先：

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課長 野村  
電話054-352-4148

6. 研修の参加者と当日のスケジュール(予定)

(1) 出身国：14カ国（ブラジル、ブルンジ、カンボジア、コートジボワール、エルサルバドル、ガボン、インドネシア、ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、ベトナム、カメルーン、タンザニア）

(2) 当日のスケジュール

13:10～13:25（15分） 清水港湾事務所長挨拶、講師のご紹介

【1班】9名+通訳

13:25～13:35（10分） 移動（事務所～船着き場）【徒歩】

13:35～14:25（50分） 清水港視察（「清水港みなと色彩計画の説明」）【船上】

14:25～14:35（10分） 移動（船着き場～事務所）【徒歩】

14:35～14:40（5分） 休憩

14:40～15:30（50分） 清水港概要の説明【会議室】

【2班】9名+通訳

13:25～14:15（50分） 清水港概要の説明【会議室】

14:15～14:20（5分） 休憩

14:20～14:30（10分） 移動（事務所～船着き場）【徒歩】

14:30～15:20（50分） 清水港視察（「清水港みなと色彩計画の説明」）【船上】

15:20～15:30（10分） 移動（船着き場～事務所）【徒歩】

【参考】



昨年の見学会の様子(1)



昨年の見学会の様子(2)

## 【参考】

みなと色彩計画推進協議会ホームページより抜粋

### 世界に誇る美しいみなとまちづくり 「清水港・みなと色彩計画について」

清水港は、全国に先駆けて民間企業や行政との連携により美しいみなとづくりを行っています。

平成3年から現在まで21年間の民間企業や行政など関係者の思いの積み重ねが、港まちの景観に厚みを加え、現在の、コンテナクレーンなどの技術と景観とが調和した美しい清水港を作り上げています。

清水港・みなと色彩計画が始まった当時から、色彩計画によるみなとづくりはもちろん、民間企業の協力による取り組みは革新的な行いでした。

#### 1. 清水港・みなと色彩計画ー活動の背景・経緯ー

清水港は政令指定都市静岡市の港であり、神戸港、長崎港と並び日本三大美港の一つと評される港です。また、天女伝説の三保の松原や富士山を借景とした日本を代表する素晴らしい風景を持つ静岡県の国際拠点港湾です。しかし当時は他の多くの港と同様に、紅白の煙突や老朽化したタンクや倉庫が建ち並ぶ殺伐とした港であり、その素晴らしい風景が活かされていない港でした。

そこで平成2年、工業地化し市民が立ち寄れなくなった港湾空間に生活機能を回復することを目的とする、20代～60代の女性23名で構成された「レディズ・マリン・フォーラム」が立ち上げられました。このフォーラムでは、「食べる」「憩う」「見る・景観」の視点で分科会を設け、1年間のワークショップを行い、「レディズ・マリン・フォーラムレポート」として提言を行いました。その提言をもとに、費用がかからず実効性のある計画として、平成3年に「清水港・みなと色彩計画」が策定されました。

#### 2. 清水港・みなと色彩計画ー概要ー

平成3年に開かれた「清水港・みなと色彩計画策定委員会」により、臨港地区の500haを港湾機能や将来方向に応じた、それぞれの地区毎にまとまりをもった色彩方針が立てられ、美しい自然景観と調和した人工景観を創出しようという目的のもと、平成4年度から本計画が実施されました。その地区の建築物、工作物等をそれに即した色彩に塗り替えることにより、住む人、働く人、訪れる人々に快適で活気のある、個性あるみなとづくりを行うことを目指しています。

計画の実施にあたっては、港湾関連事業者の自主的な取り組みによる届け出制をとっています。当初は塗り替えに費用がかかることや企業に独自のCI(コーポレートアイデンティティ)があることから対象企業の6割強もの賛同が得られず計画の実効性が懸念されました。このため、協力を得やすい色彩構成の提示、色彩計画推進協議会・アドバイザー会議、企業の相談に応じやすい体制などの仕組みがつけられ、協議案件のある企業にはアドバイザーが出向きCG(コンピュータグラフィックス)などを用いた、それぞれの企業の個性や

独自性を活かしながら周辺環境との調和を図るような提案を行いました。

この結果、港湾施設・工作物の塩害防止のために5～7年毎の更新時期に合わせて周辺環境に調和した塗り替えが行われ、年間30～50件の塗り替え相談が行われるようになりました。清水港は物流ヤードや冷凍倉庫群、LNG(液化天然ガス)基地、製造工場群、海水浴場まである多機能な港であり、人のにぎわい空間の日の出地区の対岸にはタンク、煙突、ベルトコンベアの工場群が見えます。この色彩計画の実施により、これらの産業景観を洗練された風景に演出しています。

この計画の特徴の一つとしてシンボルカラーの設定があげられます。シンボルカラーは、「美しいみなとづくり」のイメージをリードする役割をもたせ施設・工作物に必ず一部に設置することをお願いしています。

また、清水港の景観として象徴的な機能をもつ施設には、港のシンボルカラーであるアクアブルー(10B7/8)とホワイト(9.5N)で配色計画を行っています。このシンボルカラーの設定は計画策定時、市民・企業の清水港の将来求めるイメージとして挙げられた「刷新した、真新しい」の意味を持つ色として抽出しています。

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課 あて

FAX番号：054-353-3072

## 「JICA集団研修」取材申込書

申し込み方法：以下にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。

会社名及び部署名	会社名：_____  部署名：_____
取材者  ※全員分の氏名・役職 を記入願います。	代表者氏名：_____  役職：_____
	同行者氏名：_____  役職：_____
	同行者氏名：_____  役職：_____
連絡先  ※代表者の連絡先を 記入願います。	電話番号：_____  FAX番号：_____

**申し込み締め切り：平成26年11月4日（火）12：00必着**

※取材当日は、13:10～13:20の間に清水港湾事務所1階までお越しください。